



—東地中海地域ニュース—

エジプトによる国内のヒズボラ系集団の起訴

研究員 江崎智絵

2009年4月8日、エジプト国家安全保障調査当局は、エジプト政権に対する攻撃の準備を行っていたとされるヒズボラ関係者49名を起訴したとの声明を出した。同声明は、ヒズボラのナスラッター書記長が約2カ月前のアーシューラ（シーア派の宗教的記念日）にメッセージを出し、エジプト政権に対する国内での攻撃を呼びかけたとした。

実態は未だ不明な点が多いが、本件に関する報道をまとめると、エジプト国内のヒズボラ関係者は、同国内の治安の不安定化を謀るために以下のような準備を進めていた。

- ・エジプト国内で分子を集め、統一を図る。
- ・同分子集団の名前で本来の活動の目隠しとなる経済事業を立ち上げる。
- ・パレスチナ（ガザ地区）とエジプトの境界にある都市や村を拠点として、レバノンのヒズボラ事務所に成果を報告する。
- ・スエズ運河を通行する船舶を監視するために、同運河沿いに不動産を購入する。
- ・シナイ半島の南北2県にある工場や観光地を監視する。
- ・爆発技術を高める。

起訴された上記49名は、2008年12月末にガザ地区に武器を密輸しようとして逮捕された50名に含まれていた人々である。同50名の集団は、ガザとの境界にあるラファハに家屋を購入し、ハマスに武器を密輸しようとしていた。また、同集団は、エジプトにヒズボラの事務所を開設することにも係っており、ハマスへの財政支援も行っていた。

同集団は、レバノン人2名、パレスチナ人7名、残りがエジプト人。エジプト当局によれば、レバノン人のサーミー・シハーブが逮捕された集団の指導者とみられている。同人は、エジプト、シリア、ヨルダン各国を担当しており、エジプトを最大の拠点にしていた。シハーブは、ベイルートのエジプト大使館でビザを取得し、2005年以降、エジプト人との婚姻関係を利用してエジプトを頻繁に訪問していた。

さらに4月13日、エジプト当局は、シナイ半島でベドウィンにまぎれていたヒズボラ関係者13名を拘束したことを明らかにした。10名がレバノン人、3名がスーダン人とされている。当局は、他のメンバーがガザかエジプト南部のリゾート地に逃げた可能性があるとして懸念を強めている。

ナスラッター・ヒズボラ書記長の発言

4月10日、ナスラッター・ヒズボラ書記長は、テレビ演説を行い、エジプトによる上記49名の起訴がでっちあげであるとして非難した。ナスラッターは、サーミー・シハーブがヒズボラのメンバーであることを認める一方、同人がパレスチナ領への武器持ち込みのロジのみを担当しており、これが唯一正しいことであると述べた。ナスラッターによれば、この点はシハーブを起訴する際にエジプト側が明らかにしなかったことであるとされた。この点が明らかになれば、エジプトも非難の対象となり、起訴の正当性にも疑問が持たれることになりかねないからである。さらにナスラッターは、エジプトにおけるヒズボラの協力者数が50名ではなく10名とした。

エジプト政府関係者の発言

4月12日、ムバーラク大統領は、レバノンのシニオラ首相に電話をして、ヒズボラがエジプト国内でイスラエル攻撃の準備をした容疑について、エジプトは誰に対しても国境の侵害や国の不安定化を許さないと述べた。

4月14日付けロンドン発行アル・シャルク・アル・アウサト紙は、エジプトのアブゲイト外相のインタビュー記事を掲載した。同外相は、本件について、イランとその支持者が中東地域への介入の際にエジプトを「イラン王女のメイド」にしようとしていると発言、イランを非難するとともに、エジプトが主権国家であることを強調した。

ハマスの反応

ハマスは、エジプトにおける（ヒズボラの）武装問題について声明を出し、ヒズボラおよびハマスを批判する政治およびメディアの動きを非難した。その上で、この問題についてはヒズボラと連帯していくとの姿勢を表明した。

また、ハマスは、ガザへの武器持込が占領への抵抗を支援するためであると主張した。さらに、ハマスは声明の中で、「誤った文脈でハマスの名前がこの問題に巻き込まれていることを奇妙に感じる。この目的は、ハマスおよび抵抗の姿をデフォルメし、ハマスに政治的スタンスを変えるよう圧力をかけることにあると確信している」と述べた。